

第二十一回全国「水」の俳句大会

優秀作品集



特選



1
髪洗ふ明日退院といふ日なり

奈良県宇陀市

津風呂和子

(84)

2
処理水の潮騒となり秋夕焼

大阪府河内長野市

脇山良子

(71)

3
螢火の一ぬけ二ぬけ恋の水

神奈川県伊勢原市

中本萬里

(79)

☆☆☆ 準特選



1 摩天楼あやしく揺れる水中花

大阪府東大阪市

横手由子

(72)

2 白糸の滝しぶき浴び決断す

静岡県熱海市

久呉道子

(96)

3 打ち水の石畳ゆく夏日傘

大阪府富田林市

藤野正勝

(53)

4 はしこくて少し怠けて水馬

広島県豊田郡

谷本 愛

(38)

5 霧濃くて地球の軸をさまよえり

大阪府大阪市

鈴木井中

(87)

6 処理場の水音昏るる星祭

滋賀県大津市

志村宣子

(76)

7 伊丹郷水汲む列に秋の蝶

兵庫県伊丹市

辻 ますみ

(82)

8 せせらぎに旅の途中の水遊

大阪府八尾市

佐雑豊子

(77)

9 ふるさとのラベル冠した山清水

兵庫県西宮市

影田清晴

(72)

10 引越しの助手席に抱く金魚鉢

大阪府東大阪市

永川都子

(74)

11 宮水の旨さ際立つ新走

大阪府池田市

枇榔蓉子

(81)

入選句

1 校庭の蛇口上向く盛夏かな

宮城県仙台市
渋谷陸前

(64)

2 旧友がいる河津桜木足湯かな

東京都品川区
堂々 功

(77)

3 子に代わり親が主役の水鉄砲

東京都豊島区
奥 要尽

(71)

4 入院でサルスベリの水孫の手に

東京都目黒区
石川 永球

(75)

5 横恋慕断ち切る旅や那智の滝

東京都府中市
橋本 芳醉

(67)

6 早なき処理水の川水遊び

神奈川県横浜市
竹石 筑水

(70)

7 別れては新たな旅や春の水

神奈川県横浜市
蓮見 ふじ江

(79)

8 水面を丸く切り取り投網打つ

神奈川県横浜市
平田 東四男

(77)

登山帽水の美味を教へけり

神奈川県横浜市
宮川 邦子

(77)

紙を漉く水の力を抜きながら

神奈川県相模原市
志村 宗明

(90)

流燈の水災の町仄照らし

神奈川県相模原市
三十尾 維大

(83)

ゆく秋や波がのみ込む一人言

神奈川県茅ヶ崎市
清水 吞舟

(77)

水打つて女将のひと日生まれり

神奈川県茅ヶ崎市
清水 ナス子

(75)

年毎に数増す螢火処理の水

福井県越前市
高中 遊子

(88)

水喧嘩血の川伝説残る村

福井県鯖江市
大森 弘美

(67)

終夜滝のしぶきの坐禪僧

静岡県熱海市
久呉 道子

(96)

水眼鏡つけて少年魚となる

三重県鈴鹿市
古川 和子

(72)

18 近江路は湖を抱きて沙羅の花

滋賀県大津市
三田陽子

(84)

19 目高の子ペットボトルで組替えす

京都府京都市
樋口令子

(76)

20 横丁の水掛不動秋涼し

大阪府大阪市
片岡正枝

(76)

21 路地うらに嬉々とした子ら水鉄砲

大阪府大阪市
旭堂南華

(76)

22 地球儀の水の広さや雲の峰

大阪府大阪市
小林娃穂

(77)

23 水筒を持ったかど聞く夏休み

大阪府大阪市
佐藤二朗

(72)

24 朝な朝な私の水を待つ胡瓜

大阪府大阪市
田中ゆみ子

(78)

25 清水汲み山路の息を整へり

大阪府大阪市
田淵さく羅

(75)

26 木漏れ陽に音なく落つる白糸の滝

大阪府大阪市
辻本陽子

(75)

くびれたる曇のかたちに春の水

大阪府大阪市
藤本正義

(31)

富士の水もつたいないほどこぼす滝

大阪府大阪市
渡辺伝三

(81)

向日葵や処理水撒きぬ正門前

大阪府東大阪市
大北広海

(76)

浦風や伊根の舟屋の秋の潮

大阪府東大阪市
伊藤静香

(69)

出目金の溜息つきし泡かな

大阪府東大阪市
土屋鉄男

(87)

巡礼の滝に向かひて経唱ふ

大阪府東大阪市
富田忍

(72)

水を打ち地球の火照り冷ましけり

大阪府東大阪市
中川靖子

(77)

秋遍路ペットボトルにご神水

大阪府東大阪市
中島典子

(74)

日脚伸ぶ草をくぐれし水の音

大阪府東大阪市
額田利秀

(65)

44	校長の水打っている参観日	大阪府高槻市 梶原美和	(48)
43	大寒の海へ男の入る神事	大阪府枚方市 高木美智子	(71)
42	のどけしや舟底たたく水の音	大阪府枚方市 小北隆文	(92)
41	大琵琶の湖の歴史や蘆茂る	大阪府吹田市 山崎禎子	(78)
40	上靴を姉妹で洗ふ日向水	大阪府吹田市 大角泰子	(73)
39	空席に水置く仲間蟬時雨	大阪府豊中市 永田照子	(70)
38	太陽を一度浴びたき水中花	大阪府豊中市 安達逸子	(93)
37	滝の糸赤目の溪を流れ縫ふ	大阪府東大阪市 横手美佐子	(67)
36	打水や朝の京都の柳ゆれ	大阪府東大阪市 横手政英	

	街道の苗籠洗ふ用水路	大阪府茨木市 芳井ひろみ	(69)	45
	かき氷ついに本音は聞き出せず	大阪府寝屋川市 宇治文字	(79)	46
	写真撮る滝のしろがね入れ余し	大阪府寝屋川市 鴻野真知子	(68)	47
	波引きて残す花びら桜貝	大阪府大阪狭山市 出水欣子	(91)	48
	処理の水鮎待つ川に走り入る	大阪府柏原市 砂田八寿子	(75)	49
	水玉のワンピース揺れ夏木立	大阪府河内長野市 野田ますみ	(74)	50
	雲海の切れて谷間の水ひかる	大阪府岸和田市 大橋宮子	(78)	51
	願掛けに辿り着きたり隠れ滝	大阪府高石市 北山 憲	(70)	52
	山笑ふところどころの忘れ水	大阪府松原市 加藤あや	(81)	53

54 笹舟に平和の願い水の秋

大阪府八尾市
松岡可渡

(66)

55 水に色いのちに色や秋の虹

兵庫県尼崎市
坂手かつ子

(81)

56 噴水や天の真青を洗ひたる

兵庫県芦屋市
高山奈央

(38)

57 鮎のぼる川は光の帯となり

兵庫県明石市
前田安雄

(64)

58 立秋の言葉がすべる水の園

兵庫県川西市
高森功一

(80)

59 噴水を眺めて美術館を去る

兵庫県洲本市
高田菲路

(89)

60 さまざまな音打ち鳴らし夕立来る

兵庫県西宮市
比企博子

(75)

61 杉は天滝は川へとただ真すぐ

奈良県奈良市
川崎郁子

(77)

62 大層に撃たれて果つる水鉄砲

奈良県宇陀市
出店艶子

(67)

曲芸師水をさばける大扇子

奈良県生駒市
勝 王騎

(76)

紀の水を束ねてどうと那智の滝

奈良県北葛城郡
今中京都

(69)

朝露の水珠模様煌めくや

奈良県高市郡
谷口賢司

(68)

大雨に溢るる金魚川に跳ね

奈良県大和郡山市
村上千賀子

(66)

水ひろきところへ流れる水の秋

島根県浜田市
谷本大生

(45)

被災地の三連水車青田風

福岡県福岡市
永田寿美香

(61)

水張りて重心座る苗田かな

佐賀県鹿島市
吉村金一

(61)

69

68

67

66

65

64

63

*** 選評 ***

池田琴線女（うぐいす主宰）

今回も全国から多くの句が寄せられ感謝しながら選ばせて頂いた。特選句をはじめ、入選句は、殆んどが水に対する美しさ、美味しさなど自然の美しさを詠むものが多く「日本の水」が日常生活の中で大きく存在することを教えられるものであった。最近では大雨による水の力の恐ろしさなども教えられ、考えさせられることも多いが今回の募集は時期的に少し差があった為、そんな句が比較的少なかったように思われる。『水』の俳句と題してこれだけの多方面の見地の俳句が出来上がることに今更のように驚きと皆様の熱意に経緯を表します。最も身近な、生命に対しても大切な『水』を大切に、俳句の対象としても向かい合っていくべきだと思ふ。

中川 広（大阪俳人クラブ会員）

処理水の潮騒となり秋夕焼 脇山良子
下水処理水が川から海にそそぎ、地球の水循環に大きな役割を果たしていることを、「潮騒となり」で的確にとらえており、水循環への思いの大きさが高い評価となりました。

螢火の一ぬけ二ぬけ恋の水 中本萬里

選考会で「恋の水」が甘いのではないかとの指摘がありました。この句の場合、恋の水が利いており、これは普通の恋の水ではなく、螢火が残像と鳴って水にゆらめき、息づいているありさまを繊細にとらえたもので、哀歎をくぐり抜けた末の景を掬いあげられたものと評価されました。

摩天楼あやしくゆれる水中花 横手由子

この句を特選にあげ、選考会で強く推しましたが、事務局関係者の親族ということも特選となりました。摩天楼を水中花に見立て、「あやしくゆれる」と詠んだ句は、寡聞にして知らない。摩天楼とはニューヨーク・マンハッタンの高層ビル群を指すもので、今日、東京や大阪にも高層ビルが林立するものの、摩天楼からやはり天にも届くがごときマンハッタンのビル群が浮かび、人々の欲望、羨望、思惑が混沌と渦巻き、リーマンブラザーズの波状ではないが、まさにあやしく揺れている感があり、それに無機質でありながら水に揺らめく水中花を取り合わせた、摩天楼の本質を捉えた句として出色のものであり、準特選となりました。

中本正明（NPO法人 水フォーラム理事長）

全国「水」の俳句大会をふり返って

水による被害が多発した今年でした。こんな中で「水に関わること」をうまく取り込んで優しく詠うには中々の苦勞があつたのではないかと思われまます。でも心を打つ素晴らしい句が沢山寄せられて大変感謝しております。平成十年に始めた俳句大会は、はや二十一回を数え令和の時代に突入しました。新しい感覚で引き続き俳句大会を開催したいと考えておりますので、今後とも奮つてご参加いただきますようお願い申し上げます。

*** 選者句 ***

木の実落つ水の伴奏聴きなながら

池田琴線女

踏切の一輪挿に秋の雨

中川 広

逃水のはじめは朱雀大路かな

中本正明